

IAF事業(Industrial Automation Forum)

事業概要

継続

製造業オープン化

事業略称	IAF	期間	2010～	予算元	メンバー会費	事業形態	任意
概要	本事業では工場内の人、物、機械を連携・統合・協働するために、モデル化、クラウド化、スマート化を実現する情報技術を導入し、ものづくりにおける連携と自動化を推進する。そのために、オートメーションに係わる技術の調査・研究・標準化・普及を支援しつつ、個々の技術分野との連携や統合を目指した情報共有と内外の関連機関・団体との協働を実施する。具体的には情報技術、生産技術、システム技術などが生産システムで有効に活用されることを目指し、KPI或いはia-cloudなどの実証や普及・標準化に向けた事業を行う。						
ゴール	製造業の情報化・高度化に関する諸団体と協力し、ものづくりにおける連携と自動化を推進する。						

2022年度 計画(左)／活動報告(右) [(IAF)予算2.4／決算2.2百万円、(炭素みえる化)予算0／決算1.0百万円]

総会(6月)・運営委員会(10回程度)を開催	総会(6月)・運営委員会9回開催(4,5,6,7,9,10,12,1,3月)
IAFフォーラム2022をWebinar開催(時期未定)	IAFフォーラム2022をハイブリッド開催(2023/2/3)
展示会出展/シンポジウムを企画予定	OPC Day Japan 2022で講演(12月)
「生産現場のモデル」が、異なる立場の複数の人が議論するための“共通言語”となり、製造業界にデジタルエンジニアリングの変革をもたらす基盤を目指す	・生産現場の製造に関わるさまざまな課題に対処するモデリングを検討 ・カーボンニュートラルに向けた方策を検討
継続して、ia-cloud・Node-REDプラットフォームの保守・拡張を行うとともに、製造業DX支援プログラムを始動・推進	・ia-cloud・Node-REDプラットフォーム活用カーボンニュートラルに関する検討 ・ハンズオンセミナーを実施
経営層、管理層、作業層、SIer、IoT製品ベンダーなどが活用できる方法を継続検討。また、SMKL普及に向けた活動を推進(国内・海外)	・SMKL評価ツール試作、脱炭素に関する活動、普及活動、国際標準化活動を実施
制御層における情報連携の有効性の確認と国際標準規格の活用検討。新規技術項目の創出と標準化の提案	・MESシミュレータ構築によるKEIモデル検討 ・北九州高専との連携 (リカレント教育・デモシステム、【I-9 炭素みえる化】グリーン成長関連研修資料)

IAF事業(Industrial Automation Forum)

2022年度成果

■WG/プロジェクト

1) ia-cloudプロジェクト

- ・ia-cloud・Node-REDプラットフォームを活用したカーボンニュートラルに関する検討を実施
- ・ハンズオンセミナーを実施

2) SMKLプロジェクト

SMKL評価指標

- ・SMKL簡易判定ツールを作成
- ・脱炭素に関する活動
- ・普及活動（国内・海外）
- ・国際標準化活動を実施

3) CLiC

- ・MESシミュレータ構築によるKEIモデル検討(脱炭素含む)
- ・北九州高専との連携(リカレント教育・デモシステム、グリーン成長関連研修資料)

4) モデリングWG

- ・生産現場の製造に関わるさまざまな課題に対処するモデリングを検討
- ・カーボンニュートラルに向けた方策を検討



■各WG/プロジェクトの活動内容を基軸に、下記イベントで成果を発信

●IAFフォーラム2022

2023年2月3日 於) 機械振興会館（ハイブリット開催）